文教はぐくみ委員会資料

令 和 ８ 年 １ ０ 月
文 化 市 民 局

寛永行幸四百年祭実行委員会における不適切な事務処理について

400 年前の歴史再現等を通じて、その当時の京都で行われた文化のアップデートや経済との好循環を振り返る「寛永行幸四百年祭」において、関係職員による不適切な事案が生じたことをお詫び申し上げます。

現在、行財政局において、関係者への聴取等調査を実施しているところです。

本事業については、全国からの期待を集め、御支援いただいている事業であるため、早期の原因究明及び再発防止に努め、適正な事業運営の徹底を図りながら、事業の準備を進めたいと考えております。

つきましては、これまでに把握した課題を踏まえ、現時点での改善策について取りまとめましたので御報告いたします。

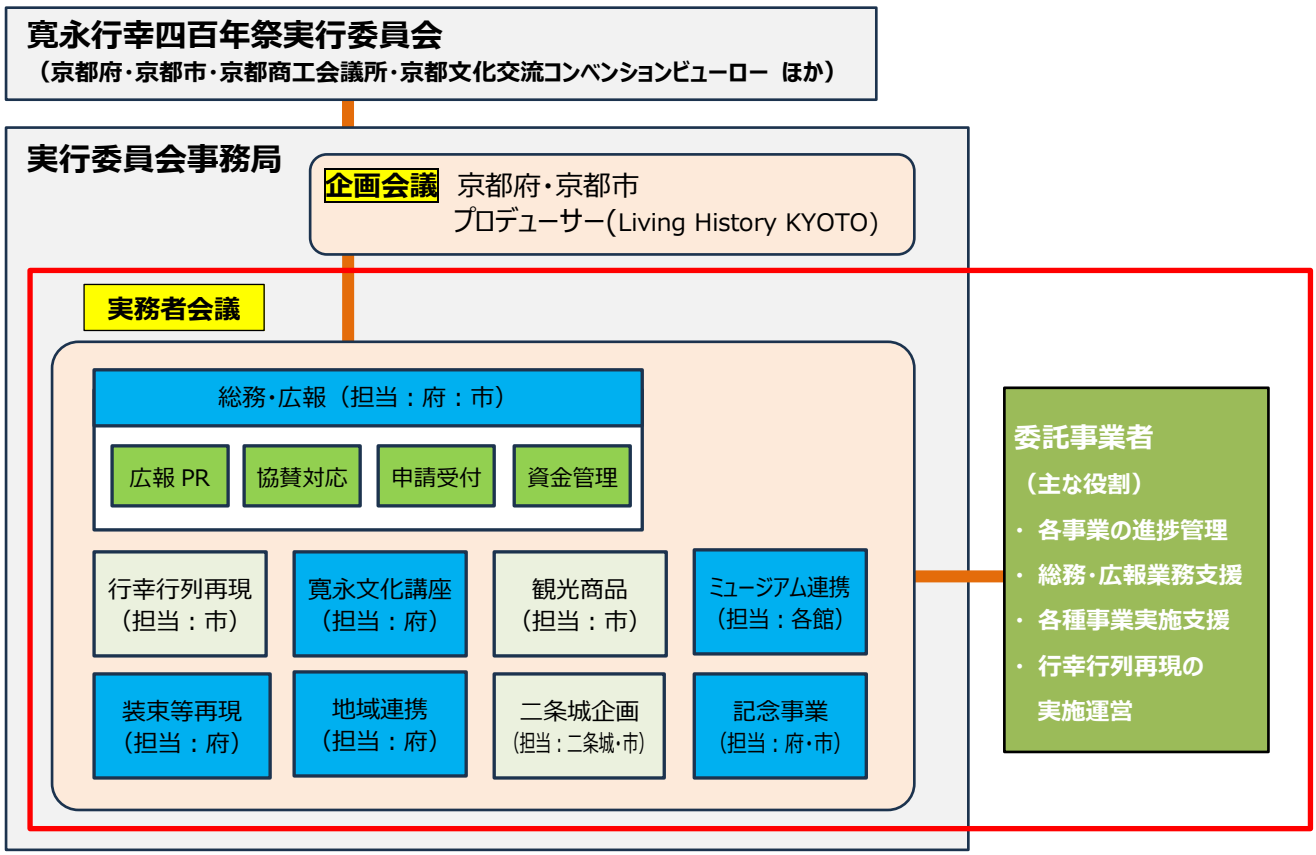
１　事業概要

（１）寛永行幸四百年祭

○　寛永３（1626）年、二条城を舞台に実施された「寛永行幸」は、その当時の京都で花開いていた「寛永文化」を担う文化人や職人の技術を結集して準備が進められ、多様な分野において文化のアップデートをもたらし、京都の産業や経済に大きな効果をもたらすこととなった。

○　令和８（2026）年、「寛永行幸」から 400 年の節目を迎えるに当たり、オール京都の取組として、300 人規模の寛永行幸行列の再現をはじめ、「寛永文化」を振り返る各種事業を実施するため、令和７年８月に、京都府・京都市・京都商工会議所を中心とした実行委員会を組織している。

（２）運営体制



２　事案の概要等

（１）事案概要

○　関係職員は、令和８年度の【「寛永行幸四百年祭」総合調整支援及び参加者管理業務（以下「本件業務」という。）】のプロポーザル方式による公募契約に関し、公募開始日である令和８年３月１３日以前に、令和７年度に随意契約をした事業者に、本件業務の仕様書案を２度（３月９日及び１１日）メール送付した。

（２）本件業務の契約に至る経過

○　実行委員会が、令和７年８月に【「寛永行幸四百年祭」行幸行列再現イベント企画運営業務】を随意契約（※）により事業者に委託（１４，６２６千円）。

※　上記業務には、専門的な知識に基づくイベントの企画立案や、行幸行列の再現を見据えた人形展示など効果的な機運醸成事業を想定しており、文化庁補助金採択後の８月の契約以降、それらの業務が円滑に履行可能等の理由で随意契約とした。

○　その後、事業者のグループ会社及び同会長（個人）から、寛永行幸四百年祭事業（寛永１６２６基金）に対し、計３０，０００千円の寄付を受領。

令和７年１０月　　１０，０００千円　寄付（グループ会社）
同年１２月　　２０，０００千円　寄付（個人）

○　令和８年度はプロポーザル方式により公募し、結果、事業者を代表とする共同企業体１社から応募、審査のうえ、同企業体と令和８年４月１日付けで契約（１６，９９５千円）。

【事業者の選定理由】

事業内容や業務趣旨に関する理解が十分あり、具体的で実現性のある企画提案がされており、効果的・効率的な事業実施が期待できるため。

○　本業務は、事業予算や時代行列の構成を踏まえながら、役柄ごとの参加人数や参加料金を設定する必要があるため、装束や時代行列に関する専門的知識が必要となる。

○　選定事業者は、自身が所有する装束を活用した、各種時代の多様な行列イベントを全国各地で実施する豊富な実績を有している。

○　また、社内に専門の学芸員が在籍しているため、イベントを監修する専門家への対応や考証に基づく装束の準備や再現が可能である。

○　なお、文化庁の補助採択後、令和８年８月に【「寛永行幸四百年祭」行幸行列再現イベント等実施運営業務】をプロポーザル公募。同企業体と契約（８０，７００千円）しているが、仕様書の事前送付は確認されていない。

３　事案の背景

○　事業の困難性

・　「寛永行幸」は 400 年前の出来事を可能な限り忠実に現代に再現する事業
・　精緻な歴史･文献考証に基づく再現が必要となるため､高い専門性が求められ、外部の知見等の活用が不可欠な事業

○　多岐に渡る事業展開

・　前年度からの短期間での「寛永文化」の認知度向上に向け、プロモーションに資する様々な事業を含め、多岐に渡る事業を展開

〇　脆弱な事務局体制

・　多岐に渡る事業展開を支える事務局体制、特に実務面のチェックを行う体制が脆弱

・　物理的制約により、事務局機能の中枢である府・市の情報連携等が非効率

４　事務の点検・改善等について

（１）事案への対応検討

○　行財政局が主体となり、関係者への聴取の実施や関係書類の確認など、事案に対する調査を速やかに進め、その結果を踏まえ、対応を検討する。

（２）実行委員会内の事務の点検・改善等

①　実行委員会内のガバナンス強化

○　企画会議と実務者会議に分割していた会議体を統合し、企画・実務双方向での議論や情報共有を迅速に行う仕組みとする。

○　実行委員会事務局次長（京都市）を担当部長に交代。当該部長の所管する本市業務の削減により、本事業に注力できる体制に変更。

②　京都市側の事務局体制強化

○　職員３名を増員し、経理・契約関係事務のチェック機能等を強化

５　今後の予定

実行委員会事務局の体制改善・強化を図ったうえで、行財政局による調査状況を見ながら、全国からの行列参加者や、協賛・寄付をいただいた４０社近い支援企業の御期待にお応えするため、１２月６日実施予定の行幸行列再現イベントをはじめとする四百年祭事業の準備を進める。